



wainhouse
real.objective.insight.

ロジクール Scribeのフ ーストインプレッション

2021年4月

提供：

logicool®



Wainhouseの推計によると

世界中の
4,860万
の会議室で

3,100

万台の

ホワイトボードが使用されている



150
万台が
大会議室で



630
万台が
中会議室で



2,310
万台が
小会議室で¹

ロジクール Scribeのファ ーストインプ レッション

2021年5月、ロジクールは、一般的なビデオ会議サービスとシームレスに連携できるホワイトボード用カメラ、ロジクール Scribeを発表しました。ビデオコラボレーションにおいて最も多く遭遇する課題の1つは、どうすれば従来のホワイトボードのコンテンツを会議室にいない参加者にも閲覧およびアクセス可能にできるのかということです。Scribeは、この課題を解決するために開発されました。

この課題の解決は、簡単そうに見えてなかなか複雑です。手書き文字などのアナログなコンテンツを抽出し、読みやすいデジタルアーティファクトに変換して、コンテンツとしてビデオ会議の参加者と共有するには、どうすればよいのでしょうか。IT部門の意思決定者（ITDM）が、会議室のワークフローを妨げないようにしながらエンドユーザーに使いやすさを提供するには、どうすればよいのでしょうか。また、このソリューションを現在使用中の他のデバイス管理ツールにシームレスにつなげて、ビデオソリューション戦略の他の要素と同じように導入、プロビジョニング、管理できるようにするには、どうすればよいのでしょうか。

¹出典：Wainhouse Research, “Conference Room Total Addressable Market & the Impact of COVID-19 on Video Conferencing”, 2020年3月



ソリューションの概要：

Scribeは、会議室における「アナログとデジタル」の微妙な分断を解消するために開発された新製品です。ロジクールの既存のカメラをマウンティングブラケットとセットにして再商品化したものではありません。歪みの少ない148°の画角の短焦点カスタムレンズを搭載した1080pカメラが、マウンティングアームに組み込まれており、ホワイトボードの上部に取り付けることができます。広い画角により、最大2メートルx1.2メートルのホワイトボード、ホワイトボードウォール、ガラス製ホワイトボードに設置可能です。

Scribeに付属しているワイヤレス共有ボタンで、ホワイトボードに書かれた情報をビデオ会議で共有できます。ワイヤレス共有ボタンはBluetooth対応で、ホワイトボード横の壁に簡単に取り付けられます。エンドユーザーは、ロジクールTapなどの会議室コントローラからビデオ会議でコンテンツ共有を開始することもできます。

Scribeは設計が優れているだけではありません。最大の特長として、ホワイトボードの映像をデジタルコンテンツに変換するカメラAIを搭載しています。Scribeはまず、カメラの角度による歪みを補正し、取り込んだ画像を「まっすぐな」画像に変換して画面の中央に据えます。この変換は自動調整プロセスの中で自動的に設定されますが、IT管理者が、ローカルにインストールしたロジクールのデバイス管理ツール、Syncアプリを使って調節することも可能

です。次に、AIアルゴリズムがホワイトボードに書かれた線を認識し、反射やまぶしさなどの不備を取り除いて、きれいな画像に変換します。AIが文字の色を引き立たせ、書かれた線をくっきりとさせることで、明瞭さをさらに高めます。Scribeは、コンテンツがホワイトボードに追加されると、並行して遅延を最小限に抑えながらこの処理を行います。さらに、AI技術がホワイトボードの前にいる人物の姿や手などを取り除くため、リモートからの参加者はホワイトボード上に書かれた必要な線だけを見ることができます。Scribeでは、管理者設定から、プレゼンターを完全に透過させたり、半透明のゴーストのような表示にしたりできます。ゴースト表示にすると、見ている人はプレゼンターが何を指差しているのか、あるいは書こうとしているのかを把握できます。その場合でも、書かれた内容は常にゴーストの画像の前面に表示されます。

こうしたAI技術により、ビデオ会議の参加者全員が、実際に会議室にいる人と同じようにホワイトボードに書かれた内容をはっきりと見ることができます。

ロジクールの他の製品にマッチ

ロジクールは、使いやすく信頼性の高いビデオ会議ソリューションの総合的なポートフォリオを提供しています。これらのビデオ会議ソリューションは、小会議室、中会議室、大会議室のすべてをカバーし、

Microsoft Teams、Zoom、Google Meetなどの主要なソリューションベンダーや、BYOD (Bring Your Own Device) での使用方法をサポートしています。

会議室ベースの周辺機器であるScribeにより、Microsoft Teams RoomsまたはZoom Roomsと互換性のあるロジクルの会議室ソリューション (MeetUp、Rally、Rally Barなど) の価値がさらに高まります。Microsoft Teams RoomsとZoom Rooms、どちらのビデオ会議サービスも、ホワイトボードカメラを使用するためのユーザーインターフェイスとワークフローを備えています。

Scribeは、会議サービス所定の仕様に従って連携するという、ロジクルの実証済みの戦略に則っています。したがってScribeでは、ZoomやMicrosoft Teamsに接続するために特別なソフトウェアをインストールする必要がなく、一時的なクラウドサービスも使用しません。このことは大きな利点です。なぜなら、これによりロジクルは、こうしたユースケースを解決するための最も重要な要素であるAIアルゴリズムの継続的な改良に専念できるからです。

なぜ今シンプルなホワイトボードカメラソリューションが重要なのか？

シンプルなソリューションが重要なのは、ハイブリッドワークがビジネスの新たな課題になっているからです。

ビジネスにおける課題

「ハイブリッドワーク」が自社にとって具体的にどのような意味を持つのかを考えると、企業は、従業員が「なぜ」「いつ」出勤するのか、さらには「どこに」出勤するのかということが変わろうとしている、という事実が気になります。多くの雇用者が、従業員全員が同じオフィスで9時から5時まで働いていた勤務形態に、別れを告げることになります。そのため、従業員がどこにしようと、使いやすい最先

端の補完的な技術を使ってハイブリッドなコラボレーション体験を最適化することが、最優先の課題になってきています。このことは、既存のコラボレーションツールセットを使っていたユーザーの利用の促進および満足度の向上にもつながります。

エンドユーザーの課題

対面でのコラボレーションの場合、多くの従業員は、慣れ親しんだホワイトボードとマーカーを使ってアイデアを共有したいと考えます。そして今、創造的で刺激に満ちたホワイトボード会議を、会議室にいない人とも、会議の流れを妨げることなく共有できることが求められているのです。会議室内の参加者には、ホワイトボードを共有できる、使い方のシンプルなコンテンツソリューションが必要です。

ハイブリッドワークの課題は新しい

問題ではないものの、パンデミックで在宅勤務が増えたことにより

81%

の回答者が今後もハイブリッドワークを継続する

予定 (COVID以前は29%²)



²出典：Corenet, Cushman & Wakefield、2021年、調査対象職場の総数、n=339

49% のエンドユーザーが
コンテンツの表示方法の改善がオンライン会議への関
与を強めると回答。うち18%が「ホワイトボードなどの非デジタルのコン
テンツの表示方法の改善」と具体的に言及³



また、このようなビデオ会議にはリモートからの参加者がいることを忘れてはなりません。リモートからの参加者には、会議室にあるカメラの、撮影角度の問題を解決できるソリューションが必要です。メインのカメラをホワイトボードに向けるだけではうまくいきません。会議室にいない人も、参加者の1人として他の参加者とコンテンツの両方を見たり、書かれた内容を確認したりできる必要があるためです。

要するに、IT意志決定者は、参加者全員が会議室にいないときでも生産性と創造性を高められる方法を考えなければならないということです。アイデアを共有するときは、会議室にいる人の間で自然に行われ、かつそこにいない人を排除しないようにする必要があります。そのためには、ビデオ会議とホワイトボードに書かれたコンテンツの共有を同時かつシームレスに行わなければなりません。

ロジクール Scribeはこうした課題に対処する機能を搭載

そこでScribeが、ますます増えてきたこうした状況に、斬新な答えを提供します。アナログとデジタルの溝を埋めるにあたり、Scribeはビデオ会議の参加者全員が、たとえその場になくても、そこで行われているコラボレーションに明瞭かつ民主的にアクセスできるようにすることに焦点を絞っています。



³出典：Wainhouse Research, Survey Insight: Meeting Room and WfH Technology Trends and Drivers – End Users Q4 2020, n= 348

- **使いやすさ**：ホワイトボードの横にあるワイヤレス共有ボタンを押すだけで、コンテンツを自動的に会議で公開できます（前述の通り、会議室コントローラのボタンでも可能）。このソリューションはエンドユーザーのワークフローを一切妨げません。ボタンを押すだけですぐに始められます。
- **AIによるパフォーマンス**：ScribeはカメラのAI技術を活用して、カメラの撮影角度による歪みを修正し、ホワイトボードの色やテキストを調整し、書いている人が映らないようにすることで、ホワイトボードや書いている人ではなく、コンテンツを前面かつ中央に表示します。
- **邪魔をしない、モダンな設計のソリューション**：一見、些細なことを感じるかもしれませんが、テクノロジーを見えなくしてコラボレーションを中心に据えた、すっきりとしたデザインのソリューションの価値をあなたにとってはいけません。Scribeのマウンティングアームはモダンな白色の先細型で、現代的な会議室のデザインにマッチします。また、複数の配線オプションが用意されており、このソリューションに使用されているCAT 5/6/7ケーブルを完全に隠すオプションなどを利用すれば、エンタープライズ対応のすっきりとしたケーブル管理が可能になります。Bluetooth接続のワイヤレス共有ボタンと組み合わせれば、設置チームが社内のすべての導入箇所で簡単に同じ作業を繰り返すことのできる、シンプルなソリューションを実現できます。
- **ロジクール Syncを使用したシンプルな管理**：デバイスの管理者は、Syncを使用してScribeを管理できます。Syncは他のロジクールビデオ会議ソリューションにも使用できるオンライン管理ポータルです。この単一のポータルで、Scribeの設定の変更、ソフトウェアの更新、システムが稼働中であることの確認などを行えます。
- **単一のベンダー**：各ビデオ会議ソリューションを単一のベンダーから購入できることは、会議室の運用において大きなメリットとなります。各ソリューションが同時にテストされているため、会議室の一部が更新またはアップグレードされたときでも何も不具合が起きないという、高い信頼性が保証されています。IT部門の調達担当者も、単一ベンダー戦略の利点に気付くはずですよ。

ロジクール Scribeのファーストインプレッションに対するWainhouseの結論

Scribeには多くの魅力があります。Scribeは、会議室内の参加者が書いているホワイトボード上のコンテンツを、会議室にいない人にも閲覧可能にするという課題の解決にフォーカスしています。IT意志決定者はまさに今、オフィスへの復帰とそれに伴うハイブリッドワークのユースケースに備える必要があるため、この新商品は絶好のタイミングで発表されたと言えます。

使いやすさ、AIによる明瞭さ、管理のしやすさという価値提案が実現すれば、ロジクール Scribe は、IT意志決定者とエンドユーザーの両方の市場ニーズに応えることができるはずです。





WAINHOUSE RESEARCHについて

Wainhouse Researchは、職場のコミュニケーションとコラボレーションに関する市場、テクノロジー、サービスについての明確な観点を得るのに役立つ、詳細な研究と分析を提供しています。Wainhouseのアナリストは、企業の音声、ビデオ、チームコラボレーション、およびストリーミングアプリケーション、サービス、およびデバイスの分野における業界専門家です。当社の専門知識は、世界中の事象を網羅したデータセットとモデルによって裏付けられています。当社の領域専門知識と市場データをまとめて、業界の現状と予測される方向性を構成する、詳細な予測、企業の洞察、および客観的な製品評価を提供します。サービスには、同時配信される市場洞察、カスタムリサーチ、およびセールスイネーブルメントがあります。コンテンツおよびその他の詳細は、<https://insight.wainhouse.com>およびwww.wainhouse.com/introをご覧ください。

リサーチャーについて

Craig DurrはWainhouse Researchのシニアアナリストで、専門は会議室コラボレーションテクノロジーおよびソリューションです。彼は、市場のサイジングと予測、製品とサービス評価、市場トレンド、およびエンドユーザーとバイヤーの期待に関する調査を提供します。製品開発、戦略的プランニング、P&L管理、価値命題の定義、およびセキュリティ、SaaS、およびユニファイドコミュニケーションサービスのビジネス開発に関連するリーダーシップの役割を19年間務めてきました。Craigには、Poly、Dell、Microsoft、およびIBMでの勤務経験があります。Craigの連絡先：
cdurr@wainhouse.com

ロジクールについて

株式会社ロジクールは、スイス連邦のローザンヌに本社を置く、人々にデジタルエクスペリエンスを提供する世界的なリーディング企業、Logitech Internationalが100%出資する日本法人です。さまざまなプラットフォームに対応する多彩なハードウェアとソフトウェアを通じて、デジタル機器を使った生活をより快適なものにします。コンピュータのコントロール製品をはじめとして、ミュージックやビデオ、ゲーミングなど多岐にわたる製品やサービスを、35年以上に渡って提供しています。

ロジクールのビデオコラボレーションの目標は、品質を犠牲にすることなく、すべての企業とすべての個人がアクセスできるビデオ会議ソリューションを手頃な価格で提供することです。すべての会議室、ワークスペース、自宅でビデオを活用できるようにしたいと考えています。ロジクールビデオコラボレーション製品の詳細については、www.logicool.co.jp/vc、www.linkedin.com/showcase/logitech-video-collaboration、<https://twitter.com/logitechvc>をご覧ください。